

## Ⅶ 学校のあり方

学校が直面する課題について、大人、子どもそれぞれの立場から聞くことで、これからの学校のあり方についての考えを把握することにした。

調査の結果、教員、保護者、学校評議員のいずれも、諸課題の解決に向けて、「個人だけでない学校全体での取組み」、「教員の指導力向上」、「地域の教育力を生かした学校づくり」を必要とする回答の割合が高い。

「学校に行きたくないときがある」子どもは、いずれの学校段階においても、5割を超えて存在している。

### Ⅶ－１ 諸課題の解決策と学校のあり方

教員、保護者、学校評議員に、諸課題の解決に向けた「これからの学校のあり方」について聞いたところ、いずれも約9割が、「個人の力だけでなく学校全体で取り組むこと」が大切であると回答している。

また、「教員の指導力の向上」と、「地域の教育力を生かした学校づくり」についても、同様に高い割合となっている。

具体的に「そう思う」「どちらかというと思う」の合計で見ると、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体で取り組む」については、教員 93.6%、保護者 89.7%、学校評議員 95.5%といずれも最も高い割合になっている。

また、三者ともに次には、「教員の指導力の向上」と、「地域の教育力を生かした学校づくりの推進」を挙げている。

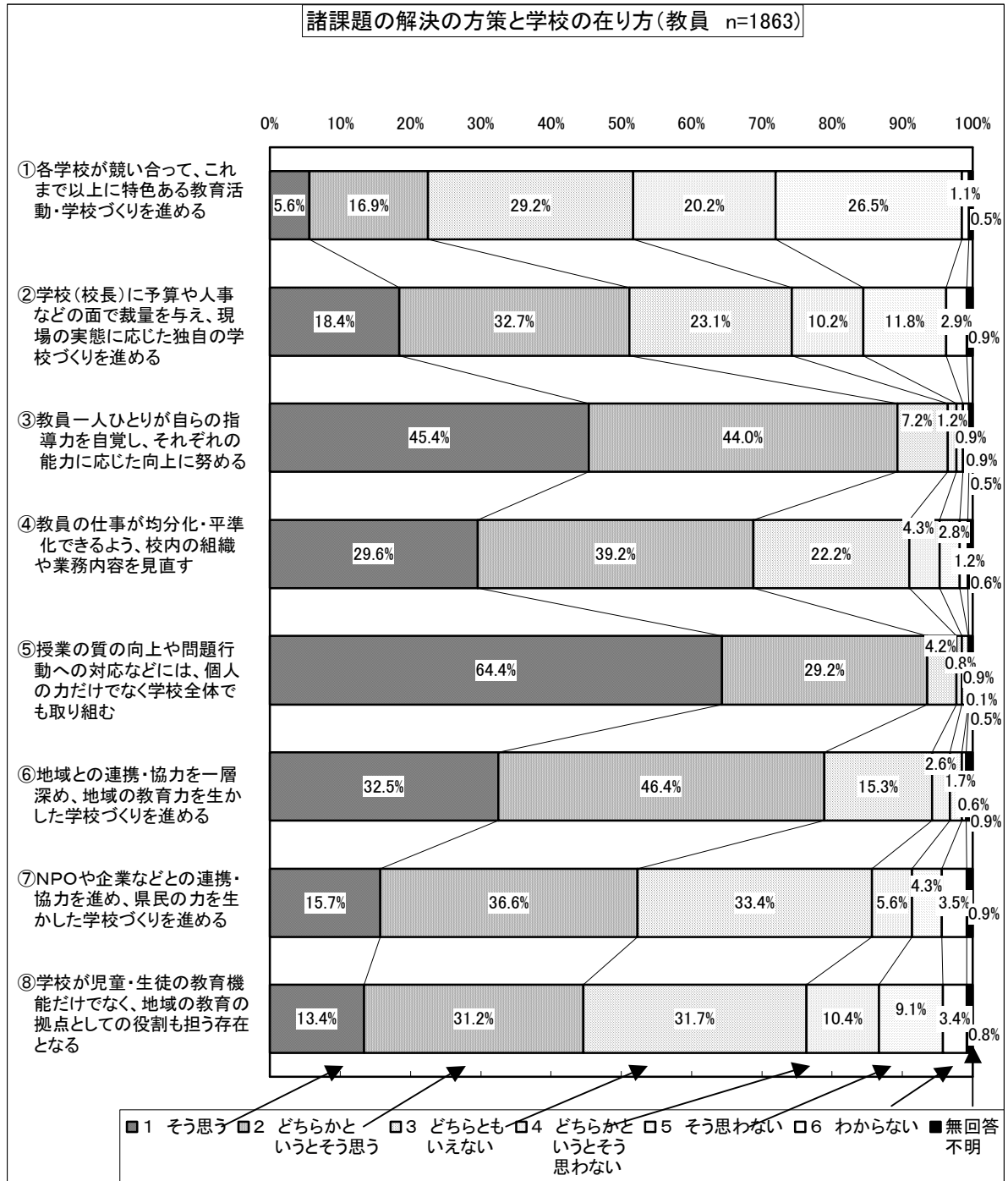
また、「学校（校長）に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める」については、教員 51.1%、保護者 31.7%、学校評議員 61.5%と、保護者と教員や学校評議員との間に大きな意識の差が出ている。

（表Ⅶ－１、図Ⅶ－１－１～３参照）

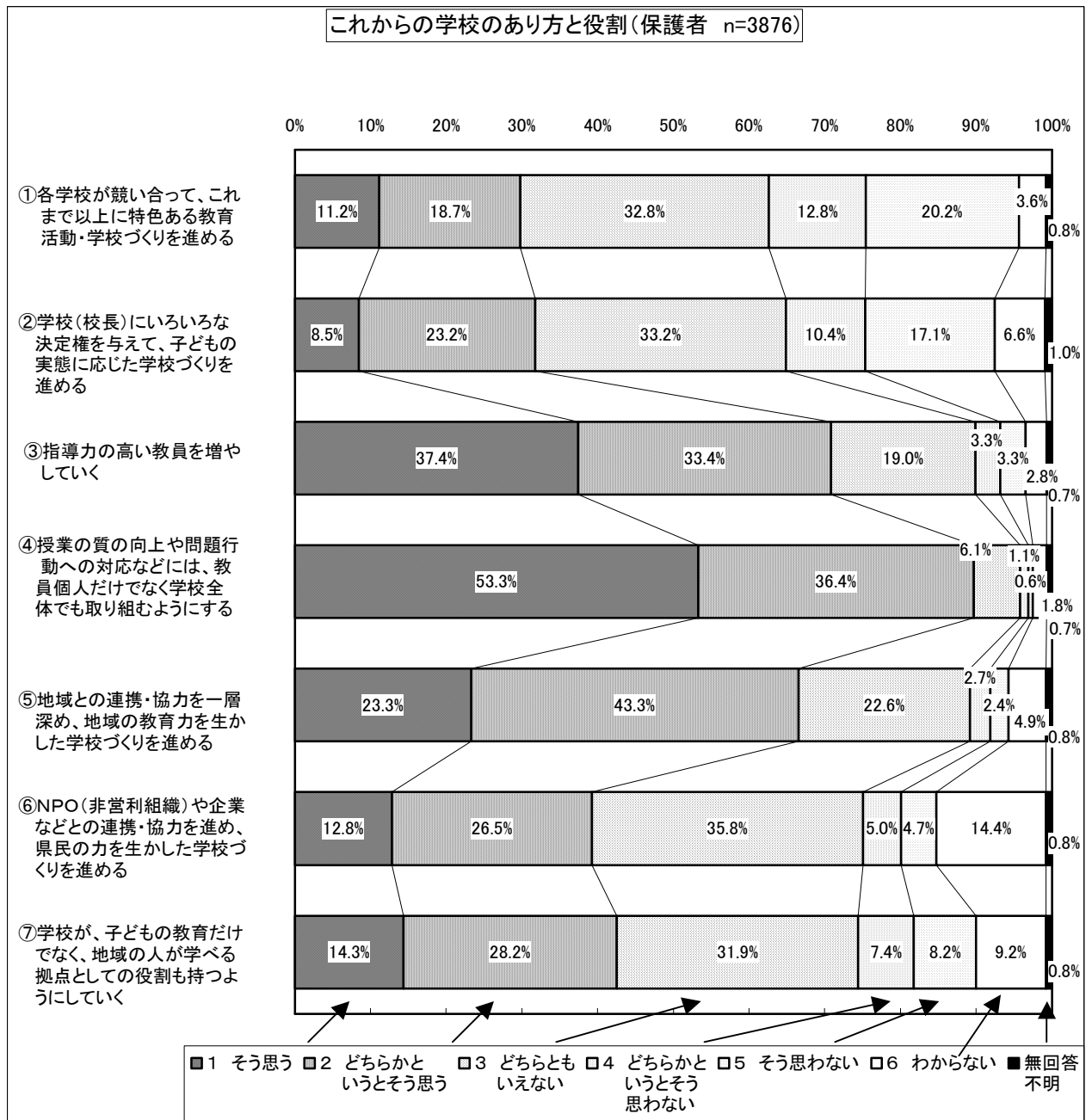
表Ⅶ－１ これからの学校のあり方（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計上位5項目）

	教員	保護者	学校評議員
1位	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体で取り組む (93.6%)	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体で取り組む (89.7%)	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体で取り組む (95.5%)
2位	教員一人ひとりが自ら指動力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める (89.4%)	指導力の高い教員を増やしていく (70.8%)	指導力の高い教員を増やしていく (84.9%)
3位	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める (78.9%)	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める (66.6%)	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める (83.1%)
4位	教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す (68.8%)	学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割も持つようにしていく (42.5%)	学校（校長）に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める (61.5%)
5位	NPO（非営利組織）や企業などと連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める (52.3%)	NPO（非営利組織）や企業などと連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める (39.3%)	学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割も持つようにしていく (51.3%)

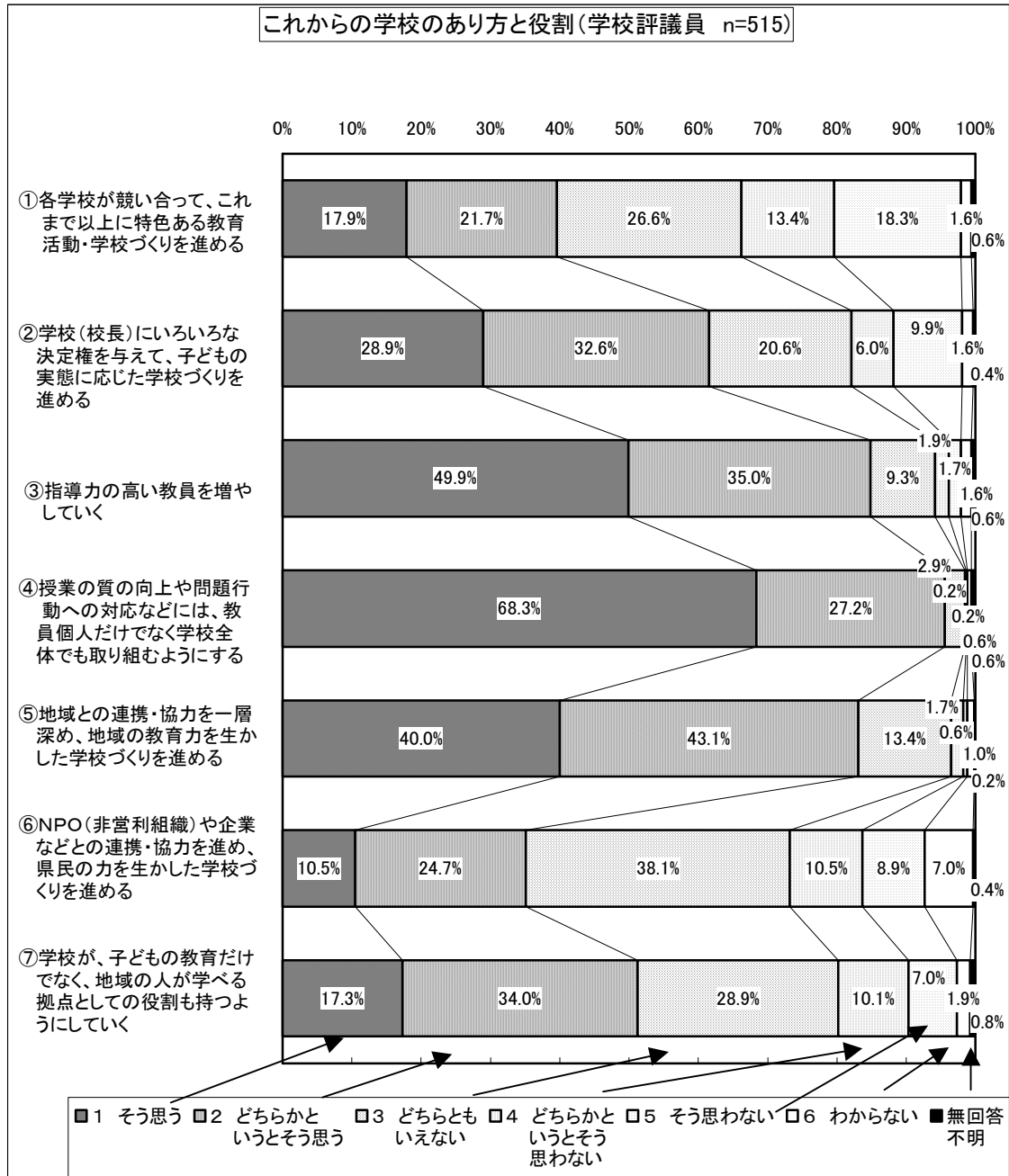
図Ⅶ-1-1



図Ⅶ-1-2



図Ⅶ-1-3

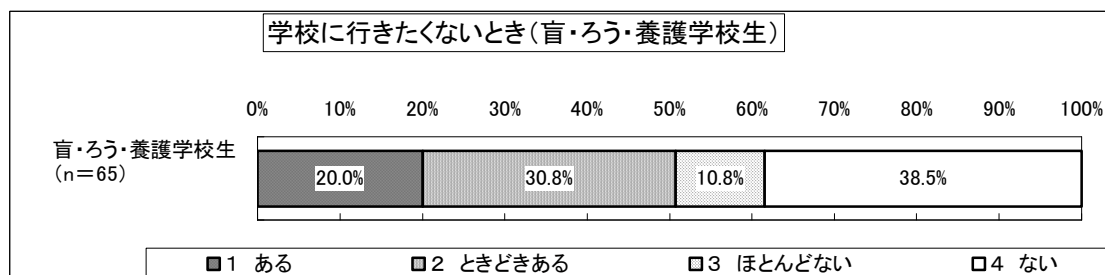
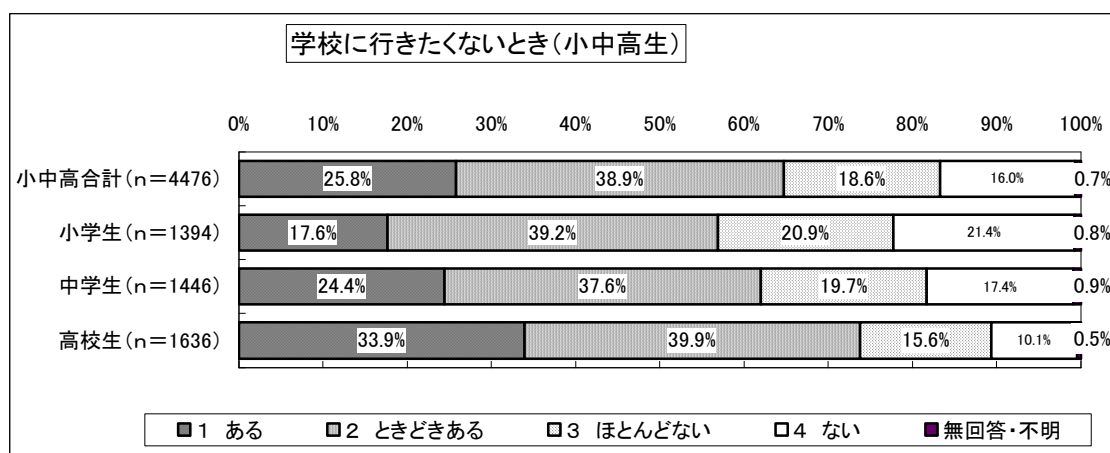


## Ⅶ-2 学校に行きたくないとき

子どもに「学校に行きたくないとき」について聞いたところ、「ある」と回答した子どもの割合が、小中高と学校段階が上がるにつれて高くなっている。

具体的には、「ある」と「ときどきある」の回答の合計が、小学生 56.8%、中学生 62.0%、高校生 73.8%、盲・ろう・養護学校生 50.8%となっている。(図Ⅶ-2 参照)

図Ⅶ-2



### Ⅶ-3 学校に行きたくない理由

※Ⅶ-2の「ある」、「ときどきある」、「ほとんどない」の回答者のみ

Ⅶ-2で、「ある」、「ときどきある」、「ほとんどない」と回答した子どもに、「学校に行きたくない理由」について聞いたところ、いずれにおいても「疲れているから」、「なんとなく気持ちのらないから」が高く、小中高と学校段階が上がるにつれて、その割合も高くなっている。

「疲れているから」（小学生 46.7%、中学生 58.3%、高校生 64.5%、盲・ろう・養護学校生 47.5%）が、いずれの学校段階でも最も割合が高くなっている。

次いで、小中高生については、「なんとなく気持ちのらないから」（小学生 33.9%、中学生 39.9%、高校生 51.0%）となっている。

さらに、「その他」（小学生 9.3%、中学生 13.3%、高校生 10.0%、盲・ろう・養護学校生 15.0%）の割合も他の項目に比較して大きい。（表Ⅶ-3、図Ⅶ-3-1～2参照）

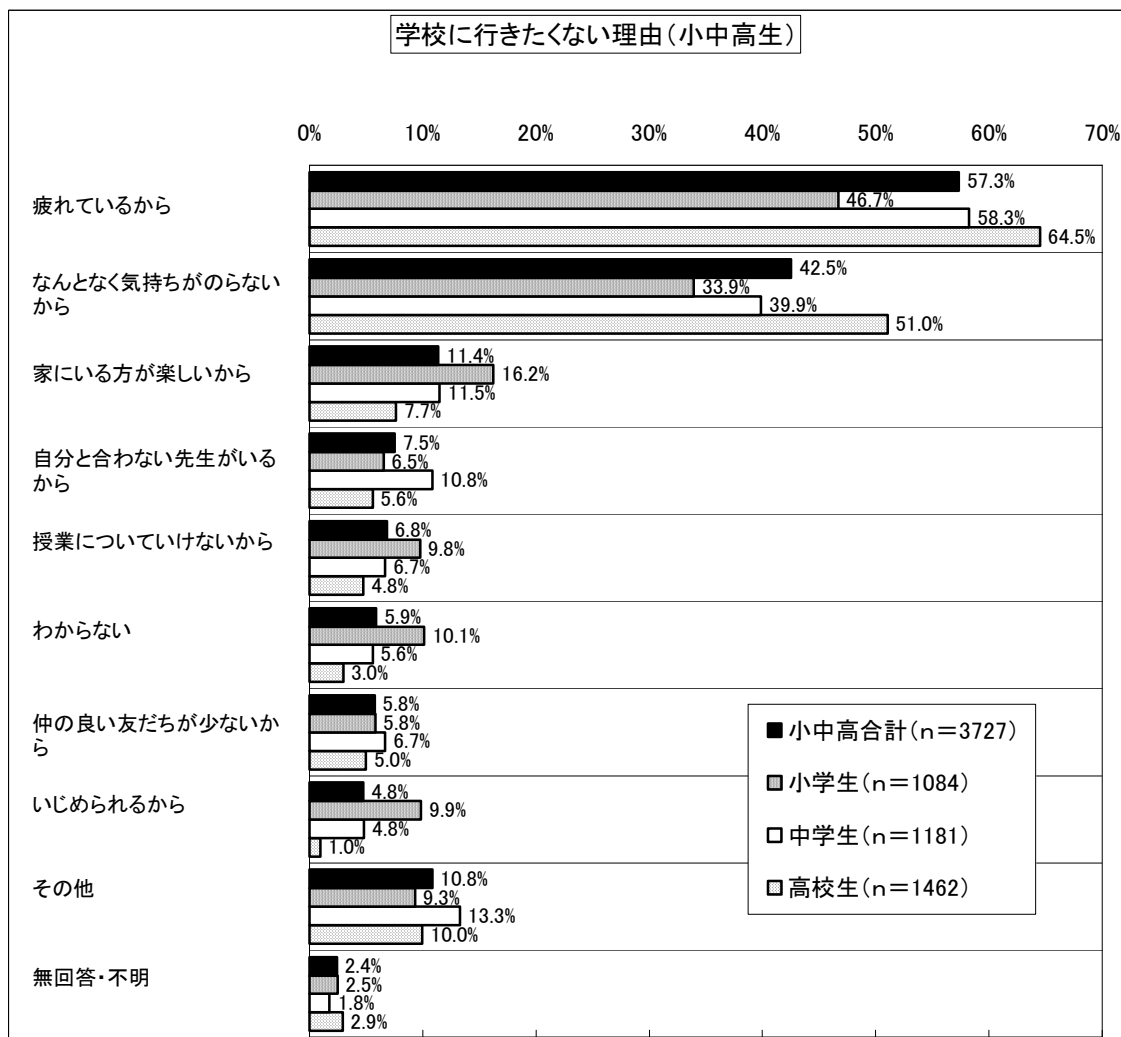
表Ⅶ-3 学校に行きたくない理由（上位5項目）

	小学生	中学生	高校生	盲・ろう・養護学校生
1位	疲れているから (46.7%)	疲れているから (58.3%)	疲れているから (64.5%)	疲れているから (47.5%)
2位	なんとなく気持ちの らないから (33.9%)	なんとなく気持ちの らないから (39.9%)	なんとなく気持ちの らないから (51.0%)	家にいる方が楽しいか ら (25.0%)
3位	家にいる方が楽しいか ら (16.2%)	そ の 他 (13.3%)	そ の 他 (10.0%)	授業がつまらないから (22.5%)
4位	わからない (10.1%)	家にいる方が楽しいか ら (11.5%)	家にいる方が楽しいか ら (7.7%)	わからない (17.5%)
5位	いじめられるから (9.9%)	自分と合わない先生が いるから (10.8%)	自分と合わない先生が いるから (5.6%)	その他 (15.0%)

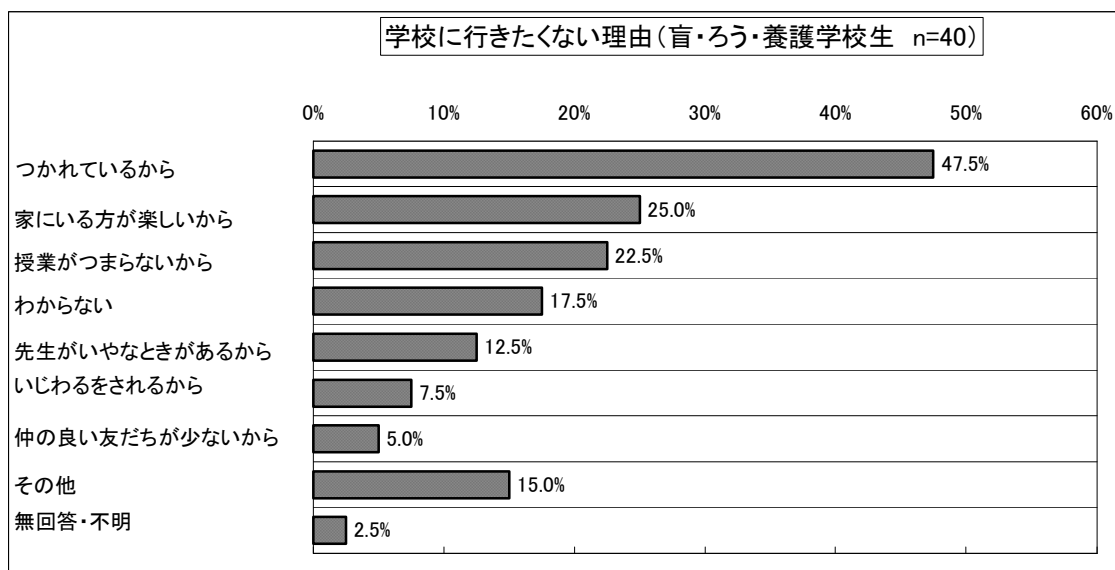
#### ※「その他」の主な回答

- 〔中学生〕 ・本当に理解してくれる人がいないから ・宿題が多く、勉強が嫌になるから  
 ・部活動が大変だから ・授業中うるさいから ・習い事をしていたいから  
 ・できないことがあると取り残された気がするから
- 〔高校生〕 ・人間関係に疲れるから ・遅刻をしたとき ・学校での目標がないから  
 ・大雨や強風のときに行きづらいから ・面倒くさいから
- 〔盲・ろう・養護学校生〕  
 ・友達などと気まづくなったとき ・朝はすごく眠いから

図Ⅶ－３－１



図Ⅶ－３－２





#### Ⅶ-4 学校がどのようになったらよいと思うか

子どもに「これからの学校のあり方」について聞いたところ、「ほっとしたり、楽な気持ちになれる」学校や、「いろいろな体験をする機会がもっと増える」学校を望む割合が高くなっている。

また、中高生は、「一人ひとりに合わせて指導してくれる」ことを望む割合も上位にあがっている。

具体的には、小中高の全体では「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」（小学生 34.6%、中学生 45.2%、高校生 42.5%）が最も高い割合であり、盲・ろう・養護学校生では「いろいろな体験をする機会がもっと増える」と「みんなといっしょに行事をする回数が増える」（共に 29.2%）が最も高い割合であった。

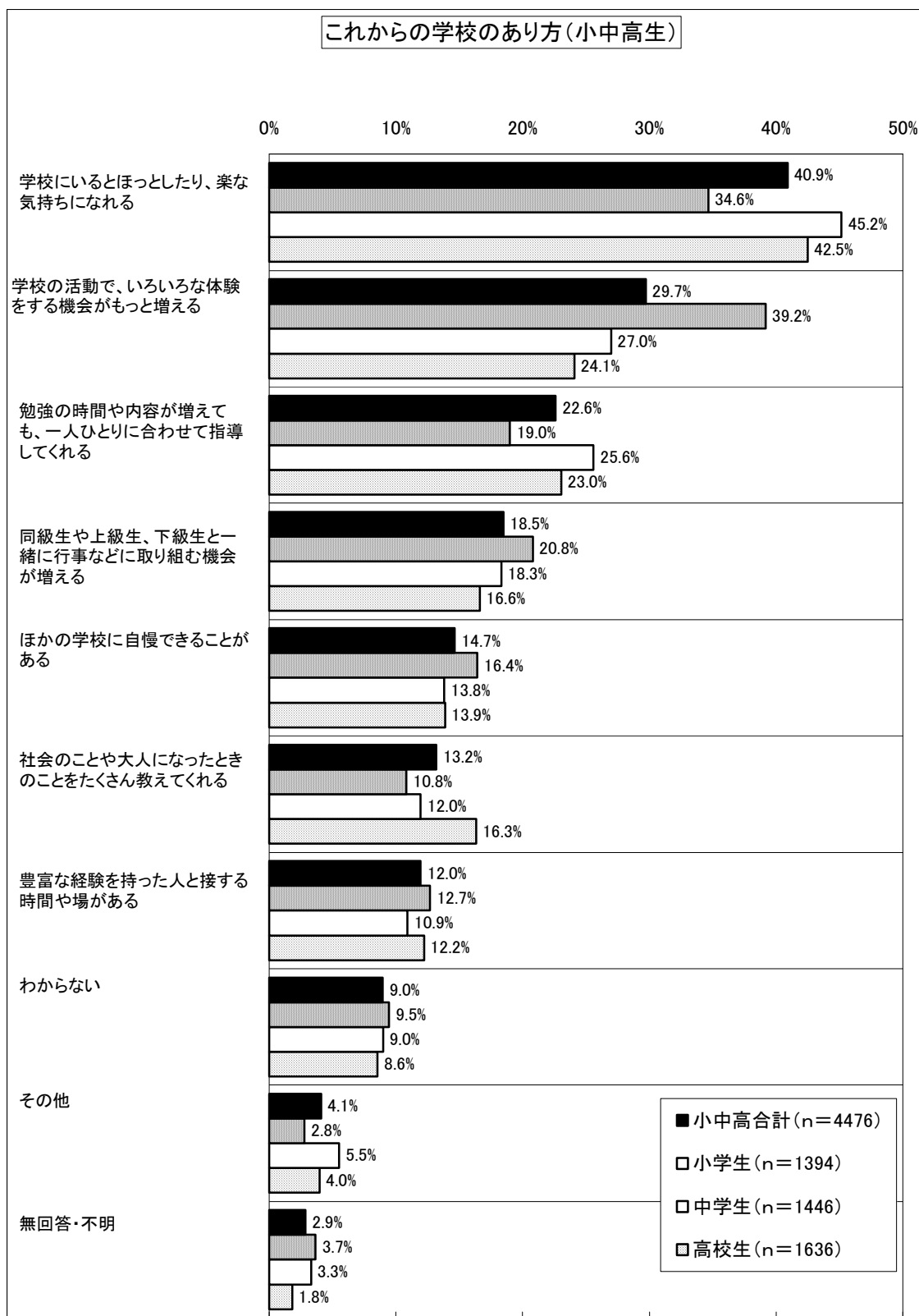
また、「学校の活動で、いろいろ体験をする機会がもっと増える」（小学生 39.2%、中学生 27.0%、高校生 24.1%）や、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」（小学生 19.0%、中学生 25.6%、高校生 23.0%）が上位となっている。

（表Ⅶ-4、図Ⅶ-4-1～2参照）

表Ⅶ-4 これからの学校のあり方（上位5項目）

	小学生	中学生	高校生	盲・ろう・養護学校生
1位	学校の活動で色々な体験をする機会がもっと増える (39.2%)	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる (45.2%)	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる (42.5%)	いろいろな体験をする機会がもっと増える みんなといっしょに行事をする回数が増える (29.2%)
2位	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる (34.6%)	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える (27.0%)	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える (24.1%)	いごちのいいところがある (23.1%)
3位	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などをする機会が増える (20.8%)	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる (25.6%)	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる (23.0%)	いろいろな経験を持った たくさんの人に会える わからない (20.0%)
4位	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる (19.0%)	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える (18.3%)	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える (16.6%)	
5位	ほかの学校にじまんで きることがある (16.4%)	ほかの学校に自慢できる ことがある (13.8%)	社会のことや大人にな ったときのことをたく さん教えてくれる (16.3%)	

図Ⅶ-4-1



図Ⅶ－４－２

